



学校だより

平成27年 9月 25日 No. 16

教育目標

- か 考える子ども
- が がんばる子ども
- や やさしい子ども
- け 元気な子ども

こたき

☎ 92-4013
FAX 92-4019

いわき市立小名浜西小学校長 高木清美

文集「いわき」出品作品の紹介

たろう、大すき

2年 わたなべ さつき

大すきなサッカー

3年 門馬 僚大

「行ってきます。」
わたしは、おじいちゃんと二人で、たろうのおさんぽに出かけました。たろうは、おじいちゃんのうちでかっている犬の名前です。わたしが、たろうの頭をなでると、しっぽをふってよろこびます。自転車のベルをならすと、おどろきます。目をよく見ると、まつげが生えています。たろうは、わたしがあそびに行くと、しっぽをびんと立ててほえます。わたしのことを、おでむかえしてくれているみたいです。

わたしとおじいちゃんは、たろうのくさりをはすし、リードをつけて歩きはじめました。少しずつむと、たろうはおしっこをしました。そして、また少し歩くとまたおしっこをしました。わらっているわたしを見ておじいちゃんが、「まいごにならないように、においをのこしているんだよ。」と教えてくれました。たろうは、うれしそうにしっぽをふりながら、どんどん歩いて行きました。そんなたろうを見て、わたしも楽しくなってきました。

家にかえってくると、わたしは、たろうとあそんであげることにしました。まず、たろうの大すきなジャーキーをひもでむすびます。次に、そのひもをものほしさおにつるします。たろうは、ジャンプして大すきなジャーキーをとるのです。パ食いしょうのようなやりかたです。たろうは、ジャンプがとくいなのでじょうずにとることとができます。たろうをなでると、ごろんとおなかを見せてあまえてきました。ふわふわしている毛のさわりごちが、とてもいい気持ちでした。たろうは、ジャンプのほかにも、おすわり、ふせ、まで、お手、においをたどるなどができます。わたしは、かしこくてあまえんぼうで、やんちゃなたろうのことが大すきです。

「りょうちゃん、サッカーやってみないか。」
ぼくがサッカーを始めたきっかけは、お父さんに「さわれたことでした。ぼくは、「うん、やりた」と、そく答しました。なぜなら、お父さんとお兄ちゃんがサッカーをやっているところをずっと見ていたからです。「ぼくも、早くサッカーを習いたいなあ。」と、うずうずしていたので、とてもうれしかったです。

ぼくは、年少からサッカーを習い始めて、2年生からし合いに出るコースに入りました。そこでは、きそ練習を中心に週2回と、土日にし合いを行っています。いつも、宿題が終わると、急いでサッカーの練習の用意をします。練習時間は、2時間。2人組でいろいろなパスをしたり、1対1でシュート練習をしたりしています。「ボールをちゃんと足で止めるんだぞ。」ぼくは、ボールを足でうけるのが苦手なので、コーチに言われたことに気をつけて練習しています。

サッカーを始めて、今までで一番うれしかったことは、きょ年の7月、はじめて出場した「ニッポンジュニアカップ」で、どうメダルをとったこととです。上級生に、「りょうちゃん、キーパーよかったよ。」と、言ってもらえたこともうれしかったです。

ぼくの目ひょうは、し合いでかならず1点とることとです。そのために、リフティングを30回でとるようにすることと、相手をしっかりかわせるようにドリブルの練習を頑張っています。でも、し合いの日がつづくにつかれてしまうこととあります。そんな時、お母さんはいつも「一生けんめいやるならサポートするよ。」と、言ってくれます。ぼくが、これまでサッカーをやってこれたのは、家族のおかげです。これからも、がんばりたいです。

たのしいとき
思ったとき
ながれたとき
時間のまほう
といてほしうな

折笠礼奈

たのしみは
新しい本
あいら本
待たな世界
待たきれぬ時

赤塚舞香

梅雨の時は
作る時期に
ぼくは妹と
作る時期に
ぼくは妹と

馬上夢叶

打ち水の
残った
虹の橋

小林雅治

6年生は、俳句と短歌に挑戦しました。

4月から上学年になった記ねんに、学年で「百マス作文」に取り組むことになった。週に1〜2分、3分間で百マス原稿用紙に様子や気持ちの分かる文を書いて、最後には「五・七・五」にまとめる勉強だ。

初めての時は、ドキドキしすぎて思う通りに書けなかった。「4年生になっていい気分」「下の学年のいい見本になるよ」という気持ちがあったのに、それをうまくまとめることができなかつた。ちょっとくやしかった。

次からは、まず最初に書きたいことを頭の中で整理してから、一気に書く作戦にした。書き出しも工夫してみる。今では、百マスをこえられるようになって、書くことが楽しくなってきた。「五・七・五」もむずかしいけれど、ひねり出しはわしくわくする。後で読み返すと、その時のことを思い出することができる。「百マス作文ファイル」は、私の宝物だ。

「なんといっても春が好き」

あたたかい春…。私はとっても好きです。なぜかという、いろいろな変化があるからです。例えば、植物がふえたり、生き物が成長したりすることです。それに、なんといっても、きれいなも色色のさくらが見られるからです。学校の坂を上っている、花びらがちらちらとふっています。それが私は大好きです。

〈 坂道でもも色花びら ふってくる 〉

「どうぞよろしく、1年生」

迎える会では、最初に「パフ」を歌いました。次に、リコーダーの演奏をきいてもらいました。最後は、「RPG」をノリノリで歌いました。1年生はよろこんでくれたかなあ。他の学年もすごかったです。私もいっしょに楽しんでしまいました。その中でも、5・6年生のこてきはとてもよかったです。これからも、楽しくすごしていきたいです。

〈 1年生 みんなでいっしょ 楽しいね 〉

「運動会でバンザイ」

ぎりぎりです。団体競技の「タイフーン」です。「バンザイ」は、今までよりも大きな声でうれしそうにさげびました。これは、みんなを力を合わせたり、たくさんおうえんした成果だと思えます。スローガン通り、「最後まであきらめずに、笑顔で」走り続けたからかなあ。こてき行進、来年は私もやるんだなあと思えました。がんばる。

〈 楽しいよ 大人になっても わすれない 〉

「1学期のがんばりニュース」

やっぱり音楽祭の練習です。学校で練習するだけでなく、家でもずっと歌っています。私は、音楽祭の発表を成功させたいのです。表じょうや口の開け方に気をつけて、体全体で歌を表現したいです。先生や家の人にも、「合唱部みただね。」と、ほめられました。ほめられたことを生かして、これからの練習も大切に続けていきたいです。歌、大好き。

〈 ぜったいに 成功させるぞ 音楽祭 〉

最近、私は、母に色々な態度をとったり、口ごたえをしたりすることが多くなりました。これが反抗期なのかも知れません。しかし、そんな母や父に感謝しようと思う出来事がありました。それは、妹の入院です。

私が10才になったとき、妹が生まれました。私は、母にずっと甘えてきましたが、しっかりしななきゃという気持ちが大きくなりました。毎日妹とすごす時間は楽しいです。妹のしぐさや笑い声や泣き声、やっとなでたおすわりはかわいくて、本当に生まれてきてくれてよかったと思うしゅん間です。

妹が8ヶ月になったとき、初めて高熱を出しました。その日、私は学校でしたが、気持ちは上の空ででした。急いで家に帰り、だっこしても私に寄りかかると、頭の大泉門というペコペコ柔らかい部分が盛り上がり、パンパンでした。

病院に行く準備をしていた時です。妹が突然何も吐いて、一点を見つめたまま反応がなくなっていました。そのままたまぐったりして、目をつぶっています。急いで救急車を呼びました。妹は動かず、私はどうしていいかわからなくて、母と泣いていました。頼りの父も和歌山で仕事でした。

救急車が着くと、妹は体にモニターと酸素マスクを付けられました。これは大変なことになった。これが夢だったらいいのに。私は、いつの間にか最近あまりつながらない母の手をギュッとつかんでいました。

病院に着いて、すいまく炎の疑いがあるので、すぐ入院するように言われました。点滴の針をさすために、押しえつけられて30分以上を泣きさげんでいました。まるで助けを求めているようで、私はかわいそうという気持ちと、早く点滴が入ってほしいという気持ちとでいっぱいでした。手は汗でびしょりで、涙が止まりません。

「大丈夫、大丈夫、絶対大丈夫。」となりで母が、私の背中を涙を流しながらさすってくれました。

点滴が入ると、次は、すいまく炎の検査です。腰の背骨の中心に太い針をさして、脳にたまったすい液をとるのです。母だけ中に呼ばれ、私は一人になりました。

このまま妹が治らなかったらどうしよう。つらくて、不安で、待っている時間がとても長く感じられました。その時、ふと、私もこうしていろいろ父と母に心配をかけてきたのかなと思えました。

検査の結果、すいまく炎ではなく、5日後、妹が退院しました。とっても元気になりました。本当によかったです。

親は、いつでも子どもの心配をしてくれているということ、家族全員が健康でそろって生活できることの尊さ、当たり前前の幸せが痛いほど分かりました。大切な家族、大切な両親に感謝する気持ちをずっと持ち続けたいです。

